

|          |   |                               |
|----------|---|-------------------------------|
| 公開・非公開の別 | <input type="checkbox"/> 公開             | <input type="checkbox"/> 部分公開 |
|          | <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 |                               |

※「(1) 審議の内容」における記号の説明  
「○」…委員の発言  
「◎」…委員の質問に対する事務局の回答

## 第5回浜松市斎場再整備事業における

### 浜松市 PFI 等審査委員会会議録

- 1 開催日時 令和5年8月29日(火)午後1時30分から
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 第3委員会室
- 3 出席状況 出席委員 寒竹 伸一(静岡文化芸術大学)  
加山 秀剛(日本公認会計士協会東海会静岡県会)  
石切山 真孝(財務部)  
新谷 直幸(市民部)
- 事務局 市民生活課  
大城課長、藤原補佐、小池グループ長、清陀、斎藤、小池
- 4 傍聴者 非公開の為、0人
- 5 議題、内容及び結果

(1) 審議の内容

議題1 基礎審査結果について

(決定)

○事務局からの基礎審査結果の報告について、確認したい点やご意見、ご質問がありましたらお願いしたい。

※異議なし※

議題2 提案内容の意見交換

(意見)

○第1、事業全体、全体事業計画に関する事項に関してご意見あるか。

◎**事業の実施方針**は、どちらかという事務局のほうで見るところになるかと思うが、概ねどこの提案もある程度市の事業方針に従って審査いただきたい。

○事務局から、提案内容で気になる点などの説明があればいただきたい。

◎事業の実施方針について、気になる点は特にない。

○2つの斎場の特性のわかりやすさというよりは、ただまとめ方が上手か下手かとう

ことで、書かれている内容についてはあまり違和感ない。

- ◎**事業実施体制**は、違いとして感じるのは、Bグループの維持管理運営の運営する企業は地元の企業が担当している。A、Cグループは地元の企業ではない。Cグループは、葬祭業者との調整だけ担当する企業があるということで違いがある。
- Cグループの企業は役割以外のバックアップ機能を検討されている感じがあるが、他のグループも、大体作ってあるけれど書いていないということか。
- ◎そうである。
- 市との円滑な連携で言うと、市との窓口の一本化を明確に書いているのはBグループで、市との窓口は代表企業が務めるというのがCグループ、Aグループはその辺は特に書いていないが、市との窓口というのは大切かと思うが。
- Bグループは地元企業があって、Aグループの本社を置いているというのは地元とはまた違うのか。ただ本社があるだけで、やり取りや連携の取りやすさという意味では差があるということか。
- ◎本当に地元企業があるのとはまた別と考えている。運営する企業が地元にあるということを重要視している。
- 提案に書いていないものはNOということ判断するのか。書いていなくてもこちらから要求はできるのか。
- ◎内容によってだが、書きぶり次第というところもあるので、書いていなくても調整はできるかと思っている。まずは、ヒアリングで聞いていただき、それでも回答に疑義が残るのであれば、審査講評のときに委員会からの要望事項ということで投げかけていただいて、それを実行していただくよう、実際の事業の中で協議をしていくことになる。
- 長期収支の安定性**は、SPC 自体の出資はそんなに差がない。金融機関の借り入れも同じような感じで、確保できているかと思う。長期収支計画も多少違いはあるが、おかしなことにはなっていない。サービスの購入料の金額はそれぞれ若干違うので、安いほうが市にとってはメリットだと思うが、長期収支計画の優劣をそこでつけていいのかというのはわからなくて、どれぐらいの利用料が発生するか、そこの読みが違うというだけの話なので、そこであまり優劣はつけづらいついかなと思うと、なかなか難しいというのが感想である。
- ◎事務局で確認したことを報告させていただくと、SPC の出資金自体はAグループが1000万、Bグループが5000万、Cグループが1000万と多少差がある。
- 出資額で優劣をつけられるものではない。多ければ多いほどいいというものでもなく、コンパクトにやろうとしているということだと思う。
- ◎資金調達金の合計で言うと、Aグループが36億8100万円、Bグループが37億4100万円、Cグループが29億2900万円と、少しCグループが少ないようになっている。それに対して利息の支払いが、Aグループが1億8400万円、Bグループが1億5200万円、Cグループが1億5500万円と、調達の資金と利息の金額によっても多少違うが、大差はないかと感じている。
- ◎一部銀行から借り入れするときのスプレッド貸しの借り方が明確に書いていないと

ころもあったので、そのあたりは確認する事項かもしれない。

○事務局で事前に確認できる場所はしてもらえるとよい。

◎**リスク管理**に関するも要求水準書に沿って的確なリスク管理について提示ができていて、特に各社差があるとは捉えていない。

○リスクはまとめ方の話で、各社リスクはそれなりに感じているのだけれど、それを明確に書いているかいらないか。書いてなくても、できますというのが確認できれば。書き方では選べないかと。

◎**地域経済への貢献**は、Aグループは、現場説明会やワークショップの実施、地域活動への参加について明記されている。Bグループは、地元で行ったワークショップの際に出た、地域の祭りへの参加、地域の祭りの太鼓の倉庫を設置してほしいという要望について応えるということが書かれている。Cグループは、地域活動への参加、説明会の実施について書かれている。各者ある程度説明会やワークショップを開いていただくということで提案がされている。加えて、地域資材の使用について評価項目になっているが、Bグループ、Cグループについては天竜材を使用ということが明記されている。

○地域経済の貢献は、地域への貢献と地域経済への貢献の両方を評価するのか。

◎そうである。経済と地域のコミュニティへの参加、両方採点の対象となっている。

○防災とか災害時の避難などに関する提案は、各社比べてどうであるか。

◎要求水準では、浜松斎場、雄踏斎場それぞれに防災倉庫の設置を要求しているので、それには当然応えている。そのほか特筆すれば、Bグループは地元の自治会と例えば災害時の協定を結んでいるといった点がある。

○例えばBグループが選ばれなくてAやCグループになったとき、災害協定を地元と結んでほしいというのは後からお願いすることは可能か。

○ヒアリングのときに委員から聞いてもらったほうがよいかと。事務局に質問権はあるか。

◎事務局にはない。

○Aグループのワークショップというのは何をやるのかよくわからない。

○事務局にお聞きするが、Bグループの提案には、太鼓の保管も可能だと書いてあるが、それは要求以上のものでも、プラスと取っていいのか。

◎地元への配慮をお願いしている中で、各グループ頑張って取り入れてくれたものだと思っている。実際にそれができるかはまた別問題だが、今時点では配慮してくれた点については評価の対象にはなると思っている。

○実現するかはともかく、そういうことを提案していることは高く評価してよいということか。

◎そうである。実現可能性は調べないといけないと思っている。

○今確実にないものは、事務局が質問事項として挙げて、回答を貰えるものはいただいて、そうでないものはこちらのほうで質問としてヒアリングで聞くということで。事前に出てきた質問事項の回答結果はヒアリング前にもらえるのか。

◎はい。事業者からの返答はヒアリング当日より前に貰う予定である。

○伊庭先生の採点表はどのような扱いになるのか。これは読んでおくということか。

◎評価の時の参考にいただければと思う。

○浜松斎場の配置計画に関する話だが、良し悪しの評価ではなく、この提案がどうなっているかという話でさせていただく。

基本的にA B Cグループの違いは、浜松斎場の方は、メインの人の動線と、炉などの配置、浜松斎場の前面道路に対してどういう配置になっているか。全体の中で適切な配置をされているか。その配置と、中での動線がしっかりできているか。雄踏斎場でも浜松斎場でも同じことであるが。

Bグループは道路側に炉がある。Cグループは全体の中で、敷地の内側に炉が来ていて、Aグループは、この2グループの中間で、半分だけ炉が道路側に来ている。大きく違うのはこの配置である。

B Cグループは、シンメトリーな配置が取れているから、形はまとまりやすい。Aグループはまちに対して45度に向いている形になっている。B Cグループはまちに対して90度という顔を作れるけれども、Aグループは、顔がまちに対して45度を向いた形を作るように形態がとられているという特徴がある。

Cグループは、機械を奥に持っていったので、まち側に葬送というか、死も人生の一部、そういうものがまちに向かっている。また、まち側にバッファゾーンとして緑の空間を配置していて、その代わり建物がちょっと奥に行かなくちゃいけなくなっている。Bグループは、コンパクトに前に持ってきて、駐車場側をゆったり取っているが、まち側に機械がきているから、まちに対してすごくソリッドな壁が出てきて、まちに表情を出してこない。Aグループはその中間で取ったので、半々になって、まち側に対して、機械室の機能と葬送の機能が2つある作り方になっているという特徴がある。それがどうこうということではないが、Aグループはこうしているので、ちょっと動線が交じる結果になっている。今交わっていても調整できるが、なっていると。B Cグループの2つは動線が交わらない。

敷地が狭いので、今回計画的に大きな車回しが取れない。車回しは、A Bグループは、出入りが同じなので、同じ車寄せの配置であるが、逆にCグループは出入口を分けているので、車寄せの配置が違うという大きな違いもある。

1つは、まち全体に対してどう構えるか。葬儀場は壁でいいんだということか、まちに対してもある程度対話しなくちゃいけない。

もう1つは、ボリュームをどう見せるかと。各社違うが、1つの形をまとめたいたいという形になると、形態に大きな違いがある。それと中の動線、これによって動線が違ってくる。

○Aグループは両方に振り分けているのでプライバシーは守りやすい、空いているときには見えなくなりやすいという配慮をしているのかなと私は思っている。ただ、初めて来る方も多いので、待合室の右左があったときにどちらに行けばいいかわかりにくいのはAの形かなと。B Cグループは横並びなので、使い勝手ではわかりやすい。

もう1つ思ったのは、使う人と近所の人、どちらを優先して考えてるべきなのか。

使うための施設ではあるが、使う機会はほとんどなく、むしろ近所の人は毎日近くに住んでいるので、その人たちから見て景観とか防災に役立つとかのほうがあるがたいのか。どちらを軸に考えたらいいのか。建物としての機能にそこまで差がないのであれば、景観とかも重要なのかなど。

- 1 つは、迷惑施設から脱却しないといけないと思う。特に浜松斎場はまちなかで、市民に親しまれた斎場と聞いている。今ある斎場は、道路に対して空きスペースがあるので引きがあり、緑もしっかり植わっていて、周りに対して迷惑施設っぽくセットされていなかったというのがある。斎場は、建築家としては、興味のある施設で、まちなかにやってみて両立させたいと思う。

あともう1つ、無理やりある形に向かって作ると、活用できてないスペースが出てくるということ。なるべく建物のボリュームは小さくしていったほうがいいと思う。例えば、Aグループの断面図で、45度でこちらに屋根をつけていきたいという意思があるのだが、機能的にはフラットで全然問題はない。断面図を見て、黒く塗ってあるところは要らないところで、真っ直ぐになっていればそれで済むところ。形のために形を作るのほうがフラットよりも物凄く価値があるのであればいいが、その辺も考えて見ていただくといいかと。良い悪いは言わないが、そういう特徴を持っているという話である。

2つの配置の仕方があって、日本の神社のような場合は、鳥居があって、シークエンスというか、場面場面で鳥居にたどり着く。東大寺みたいなお寺はドンと前に空間があって、軸線上に物を並べている。そういうアプローチの仕方。だから、死の世界に入っていく建物として、どのようにアプローチすべきというのと、道路に対してどう並べるといいのかというの、委員の皆様にも考えていただけると。建築というのは部分部分の加点方式だけではなく、総合的な中で決まるものですから。

言葉だけではなくて、図面で確認していただくことが大切かなど。

- この建物の高さは、A B Cグループとも大体14m強ということで、一番高いところは3つともそんなに変わらないという感じである。

- ◎浜松斎場の設計建築に関わる話で、**中沢子どもの森の利活用**について、安全対策も気にしていただくように案内しているが、法面の施工については3社とも同様の施工内容の提案で、そちらは差がついていないと思っている。書きぶりの話になるが、A Cグループは、中沢子どもの森の開発について説明会やワークショップを周辺の住民に行うという配慮が明確に記載されている。

また、斎場と中沢子どもの森の間に通っている中沢22号線のセットバックをお願いしているが、A Cグループについては、セットバック部分についても植栽等を行っていくという提案が書かれている。

- 利用する側で言うと、駐車場が使いやすいのか気になる。

- ◎霊柩車の車寄せと利用者の車寄せの場所、停める場所が分かれていること、入口は1カ所だが中の動線がちょっと複雑かなと懸念している。

- ◎Cグループは立体駐車場を目の前に作って、そこから斎場へ同じ高さで移動できるというのはあるなと感じている。

○Aグループは今の敷地なりに作っている。Cグループはフラットで、そこに1つにした駐車場のスペースを作っていて、それによりゆったりと前が使える。そこは1つのアイデアということなのだろう。Aグループは子どもの森との関係を何とか作り出したいという方向に重点が行ったということだろうが、どちらがよいと選ばれるかは委員の皆様の判断であるが、総合的にも見ていただければ。

◎火葬炉整備は、伊庭先生にも評価のコメントをいただいているので、参考にさせていただければと思う。

市としては、Bグループのみ1炉1系統というシステムになっていて、メンテナンスとか火葬炉の入れ替えの際に、その1つだけ止めて入れ替えを行ったり整備が行えるので、そういったところは運用が行いやすいのではないかと思う。ACグループは2炉1系統という仕組みになっている。

○雄踏斎場の配置計画について、Aグループは道路（雄踏西ヶ崎パーク線）向きにセットしてある。Bグループはこの道路に対してではなく、全体に対してセットしてある。Cグループはちょっと振れた形でセットしてある。なるべく目立たないようというのが要求の1つで、団地から見た建物の角度が効いてくるのに対して、Aグループの団地から見た角度は小さく、Bグループはちょっと大きい、Cグループは小さいと、団地の人に配慮した配置計画であるかという点で違いがある。

もう1つは、AグループとBグループは似ているが、大きく違うのは、CグループはOUTとINに分かれた配置計画になっている。右ハンドルなので、車寄せは左側にアプローチするようにしないといけませんが、そうするとABグループは、緑とかそういう形で工夫しているが、車寄せのための通路空間がどうしても2列必要になってしまう。Cグループは、その解決策として、INを分けることで車寄せは1列にできて、駐車場緑化が可能になって、この道に対して木を庭みたいによく植えることができている。もう少し植わらないのと言いたいが、前が林のような庭のような駐車場駐車場していないような形にできる。ただ、Cグループは、入口性が担保されているか、INで入るときのきっかけみたいなものを作ってあげないといけない。

中のプランニングは、各社とも真ん中あたりに入れて、両サイドに振ってという形をしている。

その他は、式場を設け方に違いがある。建物を目立たさないようにするには、分設して小さいボリュームを2つ置くという方法もあるし、くっつけて小さくするという方法がある。ABグループは式場を分けて作っていて、Cグループは式場を中にコンパクトに収めている。良い悪いは判断しないが、式場が離れみたいにして作ったほうがいいのか、コンパクトに1つにしたほうがいいのか。離れみたいにする方は、その間に中庭を設けたり、角度を変えるという演出をしている。

全体的には、Bグループは、近代的なフラットな構造物が来るよりは、屋根みたいなもので消していきたいという考え方で、全体を屋根でやろうとしている。一体感のある屋根をあの場所、目立たせたくないという場所にそういう手法を使うのが正しいのか正しくないのかというあたりも考えていただけると。Cグループの屋根

は、同じ斜め屋根でも屋根自体が構造体になっていて、下で構造でバランスを取っているような形で、無駄にでかくしなくていいという考え方。Cグループは8mほどで高さが終わっているが、ほかは11m、12mである。

- ◎補足で、地元からの要望で、斎場利用者及び地域の市民の方の憩いの場として多目的広場を設置するということを要求水準書に入れている。その中では、AグループとCグループは要求水準書を最低限満たすように、とりあえず置いてあるような提案だったが、Bグループは離れている式場棟の部分と一体化をして地元の方も使えるような、そういったスペースとしての提案がされていて、工夫してくれたなと感じている。

建物の造りは、各グループに違いがあり、Aグループは火葬炉棟の部分はRC造、式場棟については木造、Bグループは火葬炉部分がRC造、待合部分等は軽鉄造、式場棟は木造、CグループについてはすべてRC造となっている。

- 建築コストに違いはあるのか。
- ◎雄踏の増設等の工事だけで比べると、高い順にBグループ、Aグループ、Cグループである。浜松斎場、雄踏斎場、雄踏既存棟の改修を含めた合計でも、工事費は、同様に高い順にBグループ、Aグループ、Cグループである。
- ◎**火葬炉設備**は、評価の基準は排ガス性能として見ている。数値上少しづつ差はあるが、まず要求水準はもちろんクリアしている上で、大きな差はなく、同じような水準である。1つ特徴とすると、Cグループの火葬炉は、冷却方式の違いで、他のメーカーに比べてコンパクトなものになっている。
- ABグループの空気混合冷却方式は、メンテナンスが不要で維持管理も不要、Cグループの熱交換方式は、環境にやさしいという違いがあるようだが、市としてはどちらが望ましいのか。
- ◎いま浜北斎場で使っているものが熱交換方式を母体としているが、使い勝手に問題はない。我々から見ると、特に住民に対して見たときに、排出ガスを地元で報告することが求められていて、そこが重視するところなのかなと。
- 各社の基準の数字の差は、ものすごく優劣がつくような差というわけでもないのか。
- ◎そうである。
- 雄踏斎場の既存棟の改修に関し、火葬炉の入れ替え方について、事務局から発言させていただく。Cグループはコンパクトな火葬炉の設計ができるということで、既存の雄踏斎場の中に収めるという提案になっているが、ABグループについてはバグフィルターの部分を外に建屋を出して増築して設置するという提案になっている。要求水準書にも雄踏斎場既存棟は土砂災害特別警戒区域内にある建物だと書いていて、建替えや増築が中々認められないということは認識した上で、そこについて満たす提案をお願いしたいという要求水準にしてきた。改めて、墓地や火葬場を管轄している市民衛生課に確認したが、浜松市墓地等の経営の許可等に関する条例の中で、「地滑り、出水等の災害のおそれの少ない場所として規則で定める場所であること」ということで、土砂災害特別警戒区域に入っている場合は増築ができないと明確に回答いただき、まずそちらにバグフィルターを増築することはできない。

だが、事業者の提案では、雄踏斎場の既存棟についても、バグフィルターの部分を屋外に設置して、もう少し厳しい基準でできますということをあえて事業者が提案してきたというものがある。なので、今質問を事業者に投げかけており、増築については認められないため、指定してあったとおりで収める、もしくは増築部分をほかの置き方をするような提案、市のほうでどのようにしてくれということはあるが、排ガス水準を満たす範囲で提案するようにということを確認しているところである。

- 排ガス水準をより高いレベルに持っていくためにバグフィルターを外に出す提案になっているけれども、そこは仮に提案どおり行かなかったとしても、中に入れていくことができるかどうかということか。
- ◎そうである。要求水準書上は排ガス水準を満たせばいいようになっているので、例えば増築ができなくなっても、排ガス水準を満たせば、提案のほうは要求をクリアすると考えている。その提案内容によって、失格ということはないが、評価には影響が出てくると思っている。
- Cグループは、バグフィルターなしで設計しているのか。
- ◎バグフィルターはあるけれども、熱交換方式でコンパクトにできるということ。
- ◎A Bグループの今の提案は、増築部分が土砂災害特別警戒区域の部分にあるため、見直しを投げかけているが、この影響をどういうふうに判断してA Bグループが回答してくるかというところを審査で見たいと思っている。
- 省エネとか防災とか、その辺は各委員の皆様で見ていただいてももらったほうがいいかと。大体専門性があるところはレクチャーが終わったがよろしいか。

※異議なし※

### 議題3 審査に関するスケジュール等について

- ◎（事務局より、今後のスケジュールについて説明）

#### 審議の結果

議題1 基礎審査結果について、確認した。

議事2 提案内容について、意見交換を行った。

議事3 審査に関するスケジュール等について、確認した。

- 6 会議資料の名称 次第、審査に関するスケジュール、ヒアリング実施要領
- 7 発言内容記録方法 文字 / 録画 / 録音
- 8 会議録署名人 寒竹伸一 加山秀剛